

平成29年度教員の教育力向上のための授業改善研修会 発表報告

発表者 内田 均

公開授業（分野）： 文学（人文）（共通科目）

対象学年（履修区分）： 1・2年（選択必修）

公開日時： 平成 29年 6 月 20 日（火）1限

平成 29年 12 月 7 日（木）3限

■公開した授業の該当科目全体における位置づけ・進め方や工夫した点

講義全体(全15回)の流れは以下の通り。

第1回 ガイダンス（文学および小説の定義、その社会的役割と機能、小レポートの書き方、成績評価方法）

第2～12回 各回、1作家、数作品の解説（全11人、短編小説総計で40作品を扱う）

第13回 物語論の解説

第14回 文学批評理論の解説、O・ヘンリ原作の短編映画鑑賞

第15回 まとめ（授業内小テスト）

公開授業は第10回講義に当たる

※出席者概数／受講登録者数 前期…7／12 後期…34／43

公開授業（第10回講義）の流れは、以下の通りである。

- 1) 小レポート…前回（第9回）授業（8人目の作家ヴァージニア・ウルフの①意識の流れ技法（講義プリントから採って転記）②短編小説の批評文）のレポートを書く。
- 2) レポート講評…前期は第8回、後期は第7・8回授業(6人目O・ヘンリー、7人目H. G. ウェルズ)の学生の小レポートを抜粋し、語彙、文体、批評内容に関して講評、解説をする。
- 3) 9人目の作家（フランツ・カフカ）および作品を解説し、関連映像（『世界偉人伝 20世紀の巨人 文学と思想』より「フランツ・カフカ」、山村浩二監督『カフカ 田舎医者』）の一部を鑑賞する。

授業では、穴埋め形式の講義プリントと同一内容で空欄部分に加筆されたものを、PCとプロジェクタでスクリーン上に提示し、白板も併用しながら講義した。

工夫した点として以下のことを挙げておく。

- ・講義プリントの体裁や構成
- ・映像や画像などの視聴覚資料の活用
- ・小レポートの添削内容を受講者全体で共有する形でのフィードバック

■参観者や研修会での意見交換を踏まえ、次年度への改善計画等

- ・講義プリントの修正、見直し（サイズ、内容など）
- ・配付資料のうち、小説以外の関連資料の充実
- ・講義内で口頭で伝える内容の削減（発話の冗長性は残しつつ、関連情報を少し控える）
- ・授業内全体、および個別での動機付けや働きかけ方法についての再検討